



— 特集 —

あか紅く染まった しらたかの夏。

朝から弱い雨が降り続いて
いた6月23日、紅花畑に
「ぼつん」と小さな紅花が
花を咲かせ、しらたかの夏が
始まった。

夏至から数えて11日目の
7月1日、半夏生のこの日
から「紅花cology」の15万
葉からの誘いがあゆむで
スタート。オープニングセレ
モニーでは、紅花染めの美
しい紅（あか）に天蚕の生糸
をあしらった振袖が初披露
され、拍手とカメラのシャ
ッター音が会場に響いた。

さらに同日、山形鉄道
フラワー長井線にも紅花
が咲き、汽笛を鳴らして
出発する列車にたくさん
の人が手を振った。

紅花が見ごろを迎えた
7月9日、10日には「紅
花まつり」が町内3会場
で開催され、町内外から
多くの観光客が訪れた。
十王八卦地区では、今年
度初登場した「紅花娘」
の衣装を着て、写真撮影
をする観光客の姿も。今
までになかった新しい風
景が生まれた。

紅花まつりが終わると、
あちらこちらの紅花畑で
本格的に紅花摘みが始ま
った。摘み始めるのは夜
明け前から。何百もの紅
花が今年も手摘みされた。

そして、摘んだ紅花は
町内の職人たちの手によ
って日本の紅（あか）へ。
昨年、日本一の紅花生産
者となった佐藤良司さん
（中山）は、紅餅を作り
ながら汗をぬぐい、「今年
も昨年と同じくらい豊作
。町内全体で良い紅花が
育った」と満足げな表情
を見せた。

紅花生産量日本一の白鷹
町。「日本の紅（あか）
をつくる町」しらたかの
夏は、今年もたくさん
の紅花と人の手によって、
紅（あか）く染められた。



(上) 白鷹町中山地内の紅花畑
1_ 職人の技術で、一枚一枚丁寧に紅餅を作る佐藤さん 2_ 紅花に含まれるたった1%の紅（あか）の色素を抽出して加工した紅餅 3_ 花弁を乾燥させた乱花。伝統工芸品の深山和紙にも刷り込まれる